

秋田内陸線のりものまつり同時開催イベント

合資 宮越商店 特別内覧会

所有者である宮越さんのご厚意により、のりものまつりの期間中、宮越商店の一部を特別に公開します。

鉾山を中心にたくさんの方で賑う阿仁合を支えた商家の雰囲気につれてみませんか。

公開日時

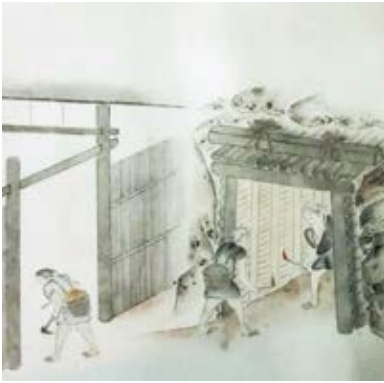
5月19日(土) 20日(日)
9時30分〜15時00分



阿仁鉱山と宮越家の歴史

阿仁鉱山の歴史

阿仁鉱山は1309年に金山が発見され、1387年に銀山として栄えました。1637年には銅山が開発され、中でも阿仁の名を高めたのが豊富な銅です。1716年に産銅日本一となり「日本三大銅山」の一つとして名をかせ、そのため全国各地から鉱夫と商人が移り住みました。その中でも、宮越邸のある水無地区は下浜が船着き場であったため、阿仁合でも大変にぎわう土地でした。



阿仁鉱山

宮越邸のはじまり

江戸時代に加賀国から来た商人で、当時は「よろず屋」と称して専売物を何んでも扱い、北前船で上方より物品を購入して大きな商売をした商家として知られています。

宮越邸の繁栄

明治に入ってからは呉服商としても栄え、事業は山林業をはじめ金融業も行いました。

阿仁部では百二十五町歩の土地を有し、地主として農林業振興に尽力した一方、阿仁合町の町長も輩出した古い家からです。

近代の宮越邸

現在の宮越家の建物は明治30年代の建物で、いま

もその遺構がしのばれ、加賀作りといわれています。玄関の前の通路は「こもせ」といわれ、建築された当時から変わらず保存されています。



阿仁の古い町並み

言葉の解説

加賀国 現在の石川県〜福井県
 専売物 主に米・箔（金箔・銀箔）・石灰・計量器・だまっこなど。
 北前船 北陸以北の日本海沿岸諸港から下関を経由して瀬戸内海の大坂に向かう航路及びこの航路を行きかう船。
 百二十五町 約124万㎡
 阿仁合町 ※皇居の面積約115万㎡、昭和30年に大阿仁村と合併し阿仁町になる。
 こもせ 現在でいうアーケードで、積雪によって通行や商売が妨げられないように作られた雪国の建築様式。

日本史年表（※参考資料）

- 1192年 鎌倉幕府を開く
- 1309年 阿仁鉱山金山の発見
- 1318年 後醍醐天皇が即位
- 1338年 室町幕府を開く
- 1368年 足利義満3代将軍就任
- 1387年 阿仁鉱山銀山の発見
- 1392年 南北朝の合一
- 1573年 室町幕府の滅亡
- 安土桃山時代となる
- 1603年 江戸幕府を開く
- 1623年 徳川家光3代将軍就任
- 1637年 阿仁鉱山銅山の開発
- 島原の乱
- 1716年 阿仁鉱山産銅日本一
- 徳川吉宗8代将軍就任
- 1773年 阿仁鉱山に平賀源内来山
- 1868年 明治時代
- 1880年 阿仁鉱山にメッセル来山
- 1905年 宮越家建築（明治38年）
- 1912年 大正時代
- 1926年 昭和時代
- 1945年 第二次世界大戦終戦
- 1964年 東京オリンピック
- 1970年 阿仁鉱山生産操業中止
- 1978年 阿仁鉱山閉山
- 第2次オイルショック
- 1989年 年号を平成とする